



ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

No.108, 109

August 2022

応用地域学会ニュースレター

CONTENTS

1. 運営委員選挙の結果
2. 運営幹事等役員の選任
3. 第35回研究発表大会報告
4. 第36回研究発表大会のご案内
5. 第12回アジア地域科学セミナー
6. 2022年度坂下賞候補者の推薦について
7. 2021年度坂下賞
8. 2021年度応用地域学会論文賞
9. 「応用地域学研究」への投稿論文の募集
10. 2021年度学会決算(概要)
11. 2021年度総会報告
12. 2022年度第1回運営委員会報告(概要)
13. 会員の入退会について
14. 事務局だより

1. 運営委員選挙の結果

選挙管理委員 小林 隆史(立正大学), 中嶋 一憲(兵庫県立大学)

2022-2023 年度 ARSC 運営委員選挙は, 2022 年 4 月 4 日締め切りで実施されました。開票集計の結果, 以下の 20 名の方々が選出され, 2022 年 4 月 1 日~2023 年 3 月 31 日までの 2 年の任期で運営委員に就任されましたのでご報告いたします。

応用地域学会 2022~2023 年度運営委員

東地区(11 名) :

吾郷 貴紀(専修大学), 赤松 隆(東北大学), 伊藤 亮(東北大学), 岩田 真一郎(神奈川大学), 河端 瑞貴(慶應義塾大学), 城所 幸弘(政策研究大学院大学), 河野 達仁(東北大学), 中島 賢太郎(一橋大学), 佐藤 泰裕(東京大学), 田淵 隆俊(中央大学), 堤 盛人(筑波大学), 以上 11 名

西地区(9 名) :

相浦 洋志(南山大学), 福重 元嗣(大阪大学), 松尾 美和(神戸大学), 松島 法明(大阪大学), 内藤 徹(同志社大学), 織田澤 利守(神戸大学), 高塚 創(大阪公立大学), 高山 雄貴(金沢大学), 山本 和博(大阪大学), 以上 9 名

(敬称略, アルファベット順)

2. 運営幹事等役員の選任

ARSC 事務局

新しい運営委員のもと、運営委員会が2022年7月23日（オンライン）に開催され、以下のように2022年度の運営幹事等の役員、委員会委員等が選任、又は任命されました。（下線が今回の新任、敬称略・順不同）

2022 年度 ARSC 役員等

○運営幹事（規程無）

- ・事務局業務の幹事業務を担う。

<2022・2023>

総務（会員の入退会）	<u>今回は選出せず</u>
会計（決算，予算）	<u>今回は選出せず</u>
渉外（ニュースレター）	<u>織田澤 利守（神戸大学）</u>

○監査委員（会則第9条3項）

- ・運営委員会が個人会員の中から委嘱する（2名）。（任期の規程無）

<2021・2022>

近藤 恵介（経済産業研究所）
松浦 寿幸（慶應義塾大学）

○選挙管理委員（選挙内規第3条）

- ・会長が指名する（2名）。（任期の規程無）

<2021・2022>

小林 隆史（立正大学）
中嶋 一憲（兵庫県立大学）

○大会プログラム委員会（規程無）

- ・運営委員会が選出し、委員長を指名する。（開催大学・委員長の意向により委員の増減あり）

<2022年度(山梨大学)>

委員長 小川 光（東京大学）
委員 相浦 洋志（南山大学），伊藤 亮（東北大学），岩田 真一郎（神奈川大学）
大窪 和明（東北大学），内藤 徹（同志社大学），宮川 雅至（山梨大学）

○坂下賞選考委員会（2004 年度～）

<坂下賞選考規程> [選考委員会] 第5条：運営委員会によって選出された3名の委員と会長及び副会長の5名によって構成される。委員長は、5名の中から運営委員会によって指名された者が当たる。[選考委員の任期] 第6条：運営委員会によって選出された3名の委員の任期は3年とし、連続して2期務めることは出来ない。これらの委員は、毎年1人が新任となり、1人が退任する。会長及び副会長については、その在任期間を任期とする。

<2022年度坂下賞選考委員会委員>

委員長 佐藤 泰裕 (東京大学 3年目)

委員 山本 和博 (大阪大学 2年目), 塚井 誠人 (広島大学 1年目)

奥村 誠 (ARSC会長), 高橋 孝明 (ARSC副会長)

○応用地域学会論文賞 (Best Paper Award of ARSC) 選考委員会

<応用地域学会論文賞選考規程>

[選考委員会] 第5条: 運営委員会によって選出された3名の委員と会長及び副会長の5名によって構成される。

委員長は5名の中から運営委員会によって指名された者が当たる。

[選考委員の任期] 第6条: 運営委員会によって選出された3名の委員の任期は3年とし、連続して2期務めることは出来ない。これらの委員は、毎年1人が新任となり、1人が退任する。会長及び副会長については、その在任期間を任期とする。

<2022年度選考委員会>

委員長 赤松 隆 (東北大学 3年目)

委員 唐渡 広志 (富山大学 2年目), 吾郷 貴紀 (専修大学 1年目)

奥村 誠 (ARSC会長), 高橋 孝明 (ARSC副会長)

3. 第35回研究発表大会報告

第35回大会実行委員長 中山 晶一郎 (金沢大学)

(1) 大会概要

2021年(令和3年)11月20日(土)および11月21日(日)の2日間にわたり、第35回応用地域学会(ARSC: Applied Regional Science Conference)研究発表大会をオンラインで開催しました。本大会は本来2020年に金沢大学(角間キャンパス)にて開催予定でしたが、コロナ禍のため、2020年第34回応用地域学会研究発表大会はオンライン開催となり、金沢大学での開催は次年度へ繰り越すことになったことが背景としてあります。コロナ感染症は2021年も収まらず、2021年第35回応用地域学会研究発表大会も前年に引き続いてオンラインで開催せざるを得なくなりました。次年度の2022年第36回応用地域学会研究発表大会も対面・オンラインのいずれの開催になるのかが確定できない中のため、金沢大学開催を次年度へ持ち越さず、応用地域学会会長奥村誠先生(東北大学)・副会長高橋孝明先生(東京大学)と応用地域学会事務局のご指導・ご協力のもと、私と高山雄貴先生(金沢大学)、山口裕通先生(金沢大学)、壇辻貴生先生(金沢大学)からなる大会実行委員会が本大会を担当することとなりました。

本大会のプログラム編成は、高塚創先生(大阪市立大学)を委員長として、大澤実先生(京都大学)、黒田雄太先生(大阪市立大学)、高山雄貴先生(金沢大学)、塚井誠人先生(広島大学)、松尾美和先生(神戸大学)、森田忠士先生(近畿大学)の合計7名からなるプログラム委員会が担当しました。

応用地域学会研究発表大会は、例年、当日参加者から徴収した参加費で会場設営・運営費をまかなってききましたが、昨年に続いて本年もオンライン開催となり、事前の参加登録を必須とし、応用地域学会正会員・学生会員の参加費を無料としました。本年の大会では 166 名の会員に参加していただきました。

(2) 研究発表セッション

本大会ではシンクタンクセッション・一般公開セッションの企画応募はなく、Early Bird セッション、一般セッション、特定セッションにおいて、合計 57 編の研究発表が行われました。本大会では、各論文について 20 分の発表に続き、発表者の希望に沿って依頼した予定討論者との 10 分間の質疑応答、一般聴衆との 10 分間の質疑応答が割り当てられ、十分な時間を使い充実した議論ができるようになっています。

Early Bird セッションは、大学院生による研究報告を集めたセッションで、ベテランの研究者がアドバイスを与えて鼓舞するとともに、Job Market としての役割も持っています。今大会では 15 編の報告が行われました。

一般セッションでは、応用地域学の分野とされてきた「空間経済」、「都市構造」、「集積」、「不動産」、「交通」、「地域活性化」、「産業組織」に加え、「災害」、「イノベーション」、「因果推論」などの課題に関するセッションが設けられ、今回はコロナ禍の時勢を反映して「感染症」などの具体的政策対応を議論するセッションも設置されました。各セッションとも、最新の研究成果が発表され、多くの討論者に討論資料を用いて丁寧な質疑を行っていただいたほか、聴衆からも質問やコメントが出され、活発な議論を行うことができました。

さらに、オンラインセッションを時間割終了後もできるだけ解放し続けることや後述する oVice で、個別の質疑や議論を継続できるようにしました。実際、いくつかのセッションでは、ベテラン会員から学生発表者へのアドバイス、実証分析に使えるデータや計算ツールの情報交換、さらには今後の共同研究活動スケジュールの調整まで、さまざまに活用され、リアルな談話室の機能を代替することができたと感じています。

特定セッションとしては、「ローカルルールを見直し地域を再生するーデジタル時代を踏まえた産官学の新たな取り組みー」が第 2 日目の 9:50~11:50 に開かれました。応用地域学会前会長の大澤義明先生（筑波大学）がオーガナイザー・座長を務められ、「ネット投票によりデジタル民主主義を推進する」、「遺産相続で発生する空き家・所在者不明土地を減らす」、「並行在来線のマネジメントで沿線地域を活性化させる」の 3 編の発表が行われました。

(3) 坂下賞受賞講演

坂下賞は、応用地域学会の創設者である故坂下昇先生の本学会に対するご功績を称え、2004 年度に創設されました。本賞は、地域科学研究の発展に顕著な貢献をした、満 40 歳以下の若い研究者を顕彰することを目的としています。

今大会では、2020年度の坂下賞受賞者である瀬谷創先生（神戸大学）から、「空間計量経済学—その到達点と展望」と題して、ご講演いただきました。瀬谷創先生は空間計量経済学において理論・実証両面からの研究成果を多数の国内外の学術雑誌に発表され、空間計量経済モデルの空間重み行列と説明変数の同時選択アルゴリズム、機械学習による固有ベクトルフィルタリング、無条件分位点回帰の拡張などを提案され、さらに瀬谷・堤（2014）『空間統計学』（朝倉書店）および Yamagata and Seya（2019）Spatial Analysis Using Big Data（Academic Press）は、空間計量経済学と地球統計学の2つの学問分野の相違と長所・短所について解説した、実務者・研究者を導く貴重なテキストとなっています。

ご講演内容は、「空間計量経済学のこれまで（空間計量経済学の概要と歴史）」と「空間計量経済学のこれから」の二部構成となっており、「空間計量経済学のこれまで」として、1960-1970年代に地図パターン問題等を発端として、地理学で計量革命が起こったり、地域科学においてオペレーショナルなモデルへの空間効果（spatial effects）の導入の必要性が認識されるようになり、1970年代にベルギーの経済学者 Jean Paelinck が「Spatial Econometrics」という用語を初めて使用するなどして空間経済学が誕生し、そして、1970-80年代に、空間計量経済モデルの最尤推定法が提案され、いくつかの重要なテキストが出版され、さらに、1990-2000年代に空間計量経済学が本格的発展したことなどの話がありました。

「空間計量経済学のこれから」としては、統計的因果推論と空間計量経済学、空間重み行列の特定化、データ欠損への対応、局所空間統計量など新しい指標およびいくつかの興味深いモデルの話題提供などがありました。

(4) 学会総会とオンライン懇親会

坂下賞受賞講演の終了後、2021年度の応用地域学会総会が開催されました。会員動態の報告、2020年度決算および2021年度の予算の報告、「応用地域学研究」の編集、出版状況の報告がなされ、それらの内容が承認されました。

2021年度坂下賞選考委員長である森知也先生（京都大学）から、藤嶋翔太先生（一橋大学）への坂下賞授与についての報告がありました。藤嶋翔太先生は、地域間の人口移動動学の理論分析において先駆的な研究を行い、その成果は、国際雑誌・国内雑誌にそれぞれ8編と5編の論文が査読を経て掲載されています。2013年に Regional Science and Urban Economics 誌に掲載された論文では、都市システムモデルを用いて、集積による外部性により複数均衡が生じる場合でも、政府が外部性を内部化することにより、最適都市人口規模分布が大域的な安定均衡として実現し得ることを示しました。2013年に Journal of Economic Dynamics and Control 誌に掲載された論文では、都市間の人口分布を個々の家計が立地スケジュールを選択するゲームの結果としてとらえ、進化ゲーム理論のアプローチを用いて均衡の安定分析を行っています。その結果、若年期に大都市に住み、老年期には人口の少ない地域に住み替えるという、実経済において観察される現象が安定均衡として得られることを示しました。2017年に Journal of Mathematical Economics 誌に掲載された論文では、離散空間における社会的相互依存モデルについて均衡の分析を行い、離散空間の下では常に均衡が複数になる一方で、それらの均衡は、空間が連続に近づくに従って、連続空間の唯一の均衡に収束していくことを示しています。この結果は、離散空間モデルを用いて連続空間モデルで得られる結果の実証分析を行うことの正当性の論拠となると思われます。このように藤嶋翔太先生は、経済学・土木工学・物理学・

地理学など多様な分野の専門家らとの共同研究に取り組んでおり、これまでの業績に加え、学際性が強みである応用地域学会のリーダーとしてふさわしい人物であると評価されました。

2021年度の応用地域学会論文賞は、山崎福寿先生・瀬下博之先生・定行泰甫先生の「不動産仲介の兼任制度に関する理論的基礎について」（応用地域学研究 2019 巻 23 号 pp. 24-44 掲載）に授与されることが審査委員長の城所幸弘先生（政策研究大学院大学）から報告されました。日本では、同一の不動産仲介業者が売り手と買い手の代理人になる兼任制度（いわゆる「両手取引」）による不動産取引が常態化しており、それが既存住宅市場を停滞させる一つの要因であるといった指摘が見受けられますが、それらは必ずしも理論的な根拠に基づいて論じられてきたわけではなく、受賞論文は、兼任制度とクロス・エージェンシー（いわゆる「片手取引」）で、価格付けと取引確率にどのような違いが生じるのかを明示的に分析するための理論的基礎を提供しています。この問題は、日本の住宅市場の効率性に関わる重要な制度であるにも関わらず従来十分に研究されてこなかった中、受賞論文は、兼任制度の是非をクロス・エージェンシーと比較することで、理論的に明快に分析し、かつ、政策的含意を導出しており、研究テーマ・内容の独自性・発展性の点で、高く評価されています。

次年度の2022年度研究発表大会は、2022年11月下旬～12月上旬で山梨大学甲府キャンパス（大会実行委員長 武藤慎一教授）を予定していることの報告がありました。

アジア地域科学セミナーは、アジア諸国における地域科学の研究発展と交流を促進するために、応用地域学会（ARSC）、中国地域学会（RSAC）、台湾地域学会（CRSA-T）、韓国地域学会（KRSA）が共催して開催しています。

第11回アジア地域科学セミナーは、Chinese Regional Science Association-Taiwan（CRSA-T）の主催により、2021年10月8日（金）に、Feng Chia University（逢甲大学）を幹事校としてオンラインで開催され、日本（ARSC）からは6本の論文が発表されました。第12回セミナーについては、来年（2022年）韓国で開催予定であることなどが報告されました。

総会終了後、オンライン懇親会が開催されました。オンライン懇親会は、オンライン上で「近くの人」とビデオチャットができるツールであるoViceを用いて行われました。詳細なマニュアルを事前に配布し、比較的円滑にツールを使うことができたと思われまます。各自がオンライン上で、近くの人とビデオチャットを行い、予定時間を超えて、談話が盛り上がっていました。

(5)おわりに

コロナ禍が続き、徐々に慣れてきたとはいえ、オンライン学会の運営には不安がありましたが、前回大会のノウハウを受け継ぎ、無事実施することができました。発表を聞いたセッションから瞬時に移動して、別のセッションの討論に参加できる、現地へ行く必要がなく、移動の時間や費用が不要など、オンラインならではの利点も感じられました。Early Birdの発表件数が例年よりも多いのはこのあたりの影響かもしれません。しかしながら、地域科学では、現実の地域を実際に訪問して学ぶところが多いことや研究者間のより深い交流などの問題を考えると、対面開催の意義も大きいと思われまます。次年度の第36回研究発

表大会は、11月下旬～12月上旬に山梨大学で開催することになりましたが、平穏な状況の中で、活発な討論ができることを祈念しています。

4. 第36回研究発表大会のご案内

第36回研究発表大会実行委員長 武藤 慎一（山梨大学）

2022年度大会は、下記の要領のもと、山梨大学の主催で開催いたします。意欲的な論文の発表と活発な討論を期待しております。会員の皆様に奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

（*新型コロナウイルスの感染拡大状況によってはオンライン開催となる可能性もございます。）

(1)大会概要

- ① 期 日 2022年12月17日（土），18日（日） （総会は12月17日（土））
- ② 会 場 山梨大学甲府キャンパス(甲府市武田 4-4-37)： <https://www.yamanashi.ac.jp/access-map>
- ③ 大会ホームページ： <https://sites.google.com/view/arsc2022yamanashi/>
- ④ 大会参加費：正会員 無料，非会員 5,000 円，学生 1,000 円（正会員，非会員とも）

（オンライン開催の場合の大会参加費：会員，非会員に関わらず無料）

*今年度の懇親会は、コロナ感染症の状況を考慮して中止とさせていただきます。

*今大会の申し込みはGoogleフォームから入力する形式になっています。大会ホームページをから、メールアドレスと会員番号を用いて「参加申し込みフォーム」に移動し、必要事項の入力をしていただきます。

ご不明な点がございましたら、第36回研究発表大会事務局（E-mail： arsc2022yamanashi@gmail.com）へご連絡ください。

(2)セッション構成

・研究発表大会では、下記セッションを開催いたします。

一般 セッション	<p>・幅広い論題でのセッションです。広くは地域，都市，交通，環境，国際に関する諸問題が対象になりますが，広い意味でこれらの問題と関係する研究報告を歓迎しております。参考として下記のキーワードを挙げておきますが，これらに縛られることなく，ARSCにとって関連ある論題を積極的にご報告ください。</p> <p>《キーワード》 成長と衰退，地域格差，産業構造，雇用・人口，地方分権，地方交付税，国土計画，都市空間，土地利用，都市集積，外部経済，住宅立地，都市化，都市財政，都市交通，混雑税，交通需要マネジメント（TDM），航空・港湾，投資評価，物</p>
-------------	---

	流, 通信, 影響評価, 環境税, 水質・大気汚染, 地球環境, 電力, 資源管理, 防災, 開発援助, 直接投資, 通貨問題, 貿易・関税
Early Bird セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文等を執筆している若手研究者や大学院在籍中の学生会員が報告するセッションです。 ・単著論文に限らず, ARSCの将来を担う若手研究者が主体的に取り組んだ研究報告を期待します。なお, 本セッションに限り, 共著者による代理報告は認められません。
特定 セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の論題を重点的に議論するためのセッションです。論点や方法論, 対象が共通する論文数編から構成されます(これまでに「新しい産官学連携のあり方ー筑波大学での革新的取り組みー」, 「沖縄県の経済振興を考える」, 「少子高齢社会の社会保障・教育・環境」, 「交通混雑緩和と料金政策」, 「知識の創造・伝搬と集積の経済」, 「人口経済学的アプローチ」, 「九州の地方創生と国際化・イノベーション」 「都市間交通」などの特定セッションが組み込まれました)。
シンクタンク・セッション	<ul style="list-style-type: none"> ・ARSCは, 会員による研究成果を実務へ活用するとともに, 実務の中で発見された様々な問題を新たな研究課題として会員に紹介するという双方向の展開が重要であるという共通認識に立っています。 ・このセッションは, 会員の中で特に計画, 政策立案, それに関連する調査等の実務に携わっている方々からの報告や問題提起をもとに構成されます。 ・賛助会員の方々をはじめ, 実務関係者の方々からの<u>企画提案をお待ちしております。</u>

(3)「一般セッション」と「Early Bird セッション」の発表申し込み

① 発表者の条件 **ARSC 会員であること**

※非会員の場合は発表申込までに入会手続きを行ってください。

② 発表申込期限 **必着 2022年10月14日(金)必着**

③ 発表申込み (申し込み方法, 申し込み先)

前項(1)で述べましたように, 今大会では, 大会ホームページ内の「参加申し込みフォーム」をご使用いただき, 下記にある a~h の各項目を入力して発表申し込みをしてください。

a.発表者氏名・所属

b.連名者氏名・所属

c.発表者の E-mail アドレスと会員番号 (入会申請中の方は「0000」で対応)

d.発表題目 (和・英のいずれか)

e.要旨 (和文 200 字, 英文 100 語程度。いずれかを記載)

f.発表時の使用言語 (日本語または英語)

g.希望討論者（候補者2名まで）

※希望討論者は最低限1名を必ずご記入下さい。候補者の方に事前に打診される必要はありません。プログラム編成や討論者のご都合によってはご希望に添えないことがあります。あらかじめご了承ください。

h.発表区分（「一般セッション」「Early Bird セッション」「特定セッション」「シンクタンク・セッション」の区分を記入。次項(4)を参照）

※第33回佐賀大会から「最優秀学生論文賞」を創設しました。Early Bird セッション発表論文のうち、論文提出時に同賞の審査をうけることを希望した論文が審査対象になります。詳細は、大会ホームページ内の最優秀学生論文賞の要項をご覧ください。

(4)「特定セッション」と「シンクタンク・セッション」の企画の募集と発表申し込み

・「特定セッション」と「シンクタンク・セッション」については、広く会員各位からの企画提案を募集しています。

・**2022年10月14日（金）までに企画提案をお送りください。**「特定セッション」と「シンクタンク・セッション」の発表申し込みに関し、大会ホームページ内の「参加申し込みフォーム」に加えて、ワード自由書式による申し込みも可能とします。ただし、前項(3)③で挙げた項目を参考に、「特定セッション」や「シンクタンク・セッション」の全体像が分かるようにして申し込みください。ワード自由書式で申し込む場合、第36回研究発表大会事務局・兼プログラム委員会（E-mail：arsc2022yamanashi@gmail.com）までお送りください。

*メールの件名は「arsc 特定 申込(申込者氏名)」または、

「arsc シンクタンク 申込(申込者氏名)」として下さい。

(5)今後の予定

① 大会プログラム

・11月18日(月)を目途に確定し、大会ホームページとニュースレターを通じてお知らせいたします。

② 発表原稿

・最終の発表原稿を12月3日（土）までに座長，討論者，大会事務局の3か所にそれぞれ個別にお送りください。

*E-mail に添付して送られる場合は、必ずPDF形式にしてください。

*大会事務局宛てのメールの件名は「arsc 発表論文(名前)」として下さい。

*論文のファイル名は「arsc 発表論文(名前).pdf」として下さい。

(例 arsc 発表論文(鈴木一郎)など)

*座長，討論者の連絡先が分からないときは、大会事務局にお問い合わせください。

- ・大会事務局に論文を PDF で送付していただければ、大会 HP に報告論文をアップロードします。
(アップロードの期間は本年中と限定します。) アップロードを希望しない場合は、メールにその旨を明記してください。

③ 発表者の準備

- ・発表会場には、論文またはそれに準ずるもののコピーを 30 部程度ご持参ください。
- ・発表会場のプロジェクターは、HDMI, VGA の両方に接続できる体制で準備する予定です。ノート PC などをご持参ください。

(6) 2022 年度大会実行組織 (敬称略)

オンライン 大会実行委員会	委員長 武藤 慎一 (山梨大学) 委員 宮川 雅至 (山梨大学), 門野 圭司 (山梨大学), 佐藤 史弥 (山梨大学)
プログラム委員会	委員長 小川 光 (東京大学) 委員 相浦洋志 (南山大学), 伊藤亮 (東北大学), 岩田真一郎 (神奈川大学), 大窪和明 (東北大学), 内藤徹 (同志社大学), 宮川雅至 (山梨大学)
大会事務局・ お問い合わせ	〒400-8511 山梨県甲府市武田 4-3-11 山梨大学大学院総合研究部 工学域土木環境工学系 (工学部土木環境工学科) 電話: 055-220-8599 E-mail: arsc2022yamanashi@gmail.com

5. 第 12 回アジア地域科学セミナー

ARSC 事務局

アジア地域科学セミナーは、アジア諸国における地域科学の研究発展と交流を促進するために、応用地域学会 (ARSC), 中国地域学会 (RSAC), 台湾地域学会 (CRSA-T), 韓国地域学会 (KRSA) が共催して開催しています。

第 12 回アジア地域科学セミナーは、韓国地域学会 (KRSA) の国内研究発表会と同時開催の形で、Ulsan Exhibition and Convention Center において 2022 年 8 月 8 日にオンサイト開催されました。また、8 月 9 日には Zoom によるオンライン開催がなされました。オンサイトのセミナーでは元韓国地域学会会長の Sam Ock Park Ulsan 大学教授の Keynote speech に続き、奥村誠 ARSC 会長、林禎家 CRSA 会長を含む 20 編の論文発表が行われました。オンラインのセミナーでは 32 編の発表が行われ、その内訳は、韓国 14 編、台湾 10 編、中国 5 編、日本 3 編でした。

第13回アジア地域科学セミナーの2023年秋の中国での開催については、現時点では未定です。中国地域学会からの情報が得られ次第、学会ホームページやニュースレター、メーリングリスト等でご案内いたします。

6. 2022年度坂下賞候補者の推薦（候補者を公募します）

坂下賞選考委員会委員長 佐藤 泰裕（東京大学）

応用地域学会では、日本における地域科学の研究を発展させ、当学会を地域科学研究の世界的拠点にする視点に立ち、若い研究者を奨励することを目的として、毎年1名の方に『坂下賞』を授与しております。

対象者は、応用地域学会の会員かつ2022年12月31日に満40歳以下の方で、地域科学の理論的研究、実証的研究及び政策的研究のいずれか（あるいは複数の領域）で大きな貢献をなし、現在もなお継続的に研究活動を行っていることが条件となります。

2011年度から一般会員からの推薦（自薦も可能）も含めて選考しておりますので、奮ってご推薦下さい。

<一般会員推薦要領>

推薦者の資格：応用地域学会員の一般会員であること

推薦できる数：推薦者が推薦できる数は1名に限る

応募書類：

推薦書（A4一枚：推薦書様式参照（ニュースレターに添付））および業績リスト（様式は任意）

締 切：2022年10月1日(土) 17時

(必着：事務局からの返信を確認してください)

宛 先：下記、ARSC事務局宛にPDFあるいはMS-Wordのファイルをメール添付で送付してください。

E-mail： clerk@arsc.one（今年度より変更しておりますのでご注意ください）

なお、一般会員推薦の候補者は、坂下賞選考委員会で委員会推薦の候補者と併せて審議され、受賞者が決定されます。応用地域学会総会(2022年12月17日予定)にて、受賞者を発表・表彰いたします。

<2022年度坂下賞選考委員会委員>

委員長 佐藤 泰裕（東京大学）

委 員 山本 和博（大阪大学）

委 員 塚井 誠人（広島大学）

委 員 奥村 誠（ARSC会長）

委 員 高橋 孝明（ARSC副会長）

7. 2021年度坂下賞

2021年度坂下賞選考委員会 委員長 森 知也（京都大学）

2021年度の坂下賞は、一橋大学大学院経済学研究科 准教授 藤嶋 翔太氏に決定しました。坂下賞の表彰は、11月20日応用地域学会総会の中で行われました。藤嶋氏には表彰盾と金一封が授与されました。

2021年度 坂下賞 受賞者

藤嶋 翔太（一橋大学大学院経済学研究科 准教授）

授賞理由

藤嶋翔太氏は、地域間の人口移動動学の理論分析において先駆的な研究を行い、その成果は、国際雑誌・国内雑誌にそれぞれ8編・5編の論文が査読を経て掲載されている。

2013年にRegional Science and Urban Economics誌に掲載された論文では、都市システムモデルを用いて、集積による外部性により複数均衡が生じる場合でも、政府が外部性を内部化することにより、最適都市人口規模分布が大域的な安定均衡として実現し得ることを示した。2013年にJournal of Economic Dynamics and Control誌に掲載された論文では、都市間の人口分布を個々の家計が立地スケジュールを選択するゲームの結果としてとらえ、進化ゲーム理論のアプローチを用いて均衡の安定分析を行った。その結果、若年期に大都市に住み、老年期には人口の少ない地域に住み替えるという、実経済において観察される現象が安定均衡として得られることを示した。2017年にJournal of Mathematical Economics誌に掲載された論文では、離散空間における社会的相互依存モデルについて均衡の分析を行った。離散空間の下では常に均衡が複数になる一方で、それらの均衡は、空間が連続に近づくに従って、連続空間の唯一の均衡に収束していくことを示した。この結果は、離散空間モデルを用いて連続空間モデルで得られる結果の実証分析を行うことの正当性の論拠となる。

藤嶋氏は、経済学・土木工学・物理学・地理学など多様な分野の専門家らとの共同研究に取り組んでおり、これまでの業績に加え、学際性が強みである応用地域学会のリーダーとしてふさわしい人物であると考えられる。よって、2021年度坂下賞を藤嶋翔太氏に授与することとする。

2021年度 坂下賞選考委員会 委員長 森 知也（京都大学）

委員 佐藤 泰裕（東京大学），山本 和博（大阪大学）

奥村 誠（ARSC会長），高橋 孝明（ARSC副会長）

8. 2021年度応用地域学会論文賞

2021年度論文賞選考委員会 委員長 城所 幸弘（政策研究大学院大学）

選考委員会では、応用地域学研究に掲載された学会員の論文を対象に、慎重に審議した結果、2021年度の応用地域学会論文賞は下記の論文に授与することとなりました。応用地域学会論文賞の表彰は、11月20日応用地域学会総会の中で行われました。著者の山崎 福寿氏、瀬下 博之氏、定行 泰甫氏には表彰楯が授与されました。

2021 年度 応用地域学会論文賞 受賞論文

論文名：不動産仲介の兼任制度に関する理論的基礎について

掲載誌：応用地域学研究 2019 巻 23 号 pp. 24-44

著 者（所属は執筆当時のものです）：

山崎 福寿（日本大学）

瀬下 博之（専修大学）

定行 泰甫（早稲田大学）

授賞理由

日本では、同一の不動産仲介業者が売り手と買い手の代理人になる兼任制度（いわゆる「両手取引」）による不動産取引が常態化しており、それが既存住宅市場を停滞させる一つの要因であるといった指摘が多く見受けられるが、それらは理論的な根拠に基づいて論じられてきたわけではない。本論文は、兼任制度とクロス・エージェンシー（いわゆる「片手取引」）で、価格付けと取引確率にどのような違いが生じるのかを明示的に分析するための理論的基礎を提供している。この問題は、日本の住宅市場の効率性に関わる重要な制度であるにも関わらず従来十分に研究されてこなかった。本論文は、兼任制度の是非をクロス・エージェンシーと比較することで、理論的に明快に分析し、かつ、政策的含意を導出している。本論文は、研究テーマ・内容の独自性・発展性の点で、高く評価できるものであり、2021 年度の応用地域学会論文賞にふさわしい論文である。

2021 年度論文賞選考委員会 委員長 城所 幸弘（政策研究大学院大学）

委員 赤松 隆（東北大学），唐渡 広志（富山大学）

奥村 誠（ARSC 会長），高橋 孝明（ARSC 副会長）

9. 「応用地域学研究」への投稿論文の募集

「応用地域学研究」編集委員長 堤 盛人（筑波大学）

「応用地域学研究」編集委員会では論文投稿を随時受け付けております。投稿論文は編集委員会の指名する複数の査読者により査読が行われます。奮ってご投稿下さい。（<http://www.arsc.org/>をご参照ください。）

理論から実証まで幅広い研究論文をお待ちしております。様々な地域課題に関する問題解決型研究などの適時性に優れた論文のご投稿や、若い研究者によるご投稿も歓迎します。

1. 論文投稿の際、論文はできるだけ MS-Word 形式のファイルを電子メールの添付ファイルでお送り下さい。宛先は、編集委員長です（e-mail: journal@arsc.org）。PDF ファイルでも結構ですが、印刷時の編集の都合で最終原稿は MS-Word 形式でお願いすることがあります。

2. 受付の確認を電子メールで送付いたします。投稿後1週間を過ぎても連絡が無い場合は、以下の連絡先までお問い合わせ下さい。
3. 掲載論文の著作権は学会に帰属します。また、応用地域学研究発行の約1年後に掲載論文を学会HPにて公開します。

『応用地域学研究』に関する お問い合わせ先

応用地域学研究編集委員長 堤 盛人

〒305-8573 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学システム情報系 社会工学域
TEL: 029(853)5007 FAX: 029(853)5070
E-Mail: journal@arsc.org

10. 会員の入退会について

ARSC 事務局

2021年度応用地域学会総会（2021年11月20日）において、2020年度総会以降に入退会を申請された以下の方々が入退会が承認されました（順不同・敬称略）（一般・学生の区分、所属は入会当時のもの）

入会：

（一般6名）橋高 勇太（神戸大学），潘 聡（京都産業大学），宇佐美 朋香（株式会社ルリアン），
菅原 宏太（京都産業大学），ドミンゲス アルバロ（公益財団法人アジア成長研究所），
ケオラ スックニラン（アジア経済研究所）

（学生12名）野村 魁（東北大学），須ヶ間 淳（東北大学），三河 直斗（慶應義塾大学），
三上 亮（大阪大学），DU YUNHAN（東北大学），一井 直人（筑波大学），
川辺 怜（筑波大学），西村 詩央里（筑波大学），幸坂 麻琴（筑波大学），
酒井 高良（東北大学），小林 直弥（東京大学），石井 健太郎（日本大学）

（海外2名）青木 洋紀（在英国日本国大使館），彭 蒂菁（國立台北大學）

同時に以下の方々退会が承認されました（順不同・敬称略）

退会：

（一般15名）植村 利男（亜細亜大学），河野 雅也（西日本工業大学），戸田 常一（広島大学），
前川 俊一（椋山女学園大学），宮下 國生（関西外国語大学），張 陽（東北大学），
伊藤 昭男（北海商科大学），木立 力（青森公立大学），苦瀬 博仁（流通経済大学），
浅田 義久（日本大学），籠 義樹（麗澤大学），長島 正治（埼玉大学），
山形 与志樹（独立行政法人国立環境研究所地球環境研究センター），中西 穂高（帝京大学），
沖山 充（株式会社現代文化研究所），堀田 剛士（東北大学），中園 大介（株式会社建設
技術研究所）

(学生3名) 恩田 幹久 (東北大学), 渡司 悠人 (筑波大学), 宮嶋 正子 (広島大学)

(海外2名) 劉 崇堅 (中華民國國立台北大学), Kang Misuk (韓国 産業研究院)

(物故会員3名) 川嶋 辰彦 (学習院大学), 山崎 福寿 (共立女子大学), 尾崎 雅彦 (大和大学)

この結果, 2021年11月19日現在の会員数は, 下表のとおりとなりました。

一般会員 419人, 学生会員 63人, 海外会員 5人, 賛助会員 5法人 (7口)

		2020/11/27	入会	退会	転格	復会	2021/11/19
個人会員	一般会員	419	6	-20	9	0	414
	学生会員	63	12	-3	-9	0	63
	海外会員	5	2	-2	0	0	5
	合計	487	20	-25	-	0	482
賛助会員		5 (7口)	0	0	-	-	5 (7口)

11. 2021年度決算(概要)

ARSC 事務局

2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日)学会決算(概要)案を以下のとおりご報告いたします。本決算結果は, 監査委員による監査後, 本年度大会での総会にて会員の皆様への報告がなされ, 審議される予定です。なお監査委員は, 昨年から引き続き, 近藤恵介(経済産業研究所)及び松浦寿幸(慶應義塾大学)の両氏です。(詳細の報告は, 監査終了後, 総会承認後のニュースレターに掲載します。)

2021年度は単年度としては約230万円の黒字, 繰越金は約780万円となり, 財政状況が改善致しました。今後の課題としましては, 昨年度に続きこの黒字分をどう生かしていくかということであると考えられます。引き続き運営委員会では, 会員の皆さまにとって有意義な学会運営となることを目指し検討を続けていくとともに, 賛助会員の確保や会員増に努めてまいります。

2021年度決算(案)概要 ()内は2020年度

(単位: 千円)

収入		支出	
繰越金	5,533 (2,620)	「応用地域学研究」刊行	130 (210)
会費(国内, 国際, 賛助)	3,833 (4,570)	大会開催補助	200 (120)
その他(雑誌販売等)	8 (0)	国際会費	199 (220)
		事務費, その他	1,020 (1,110)
収入合計	9,374 (7,190)	支出合計	1,549 (1,660)
(繰越金を除く収入計)	3,841 (4,570)	繰越金	7,825 (5,530)

2021年度の総会は、大会中の11月20日（土）に行われました。概要は以下の通りです。

（1）活動報告ならびに活動方針

奥村誠会長より、学会の活動報告と今後の活動方針が発表された。

（2）会員動態

石倉智樹総務担当運営委員より、2020年度総会以降（2020年11月29日～2021年11月10日）の入退会希望者（前掲）が報告され承認された。なお退会者については会費の長期滞納による退会者が含まれる。

（3）2020年度決算及び2022年度等予算（末尾の表を参照）

亀山嘉大会計担当運営委員より、2020年度決算報告および2022年度予算案が提示され、原案どおり承認された。

（4）『応用地域学研究』の編集・出版状況及び今後の方針

堤盛人編集委員長より、第2020巻24号発刊の報告がなされ、積極的な投稿が呼びかけられた。

（5）2021年度坂下賞（前掲）

2021年度坂下賞は、一橋大学大学院経済学研究科 准教授 藤嶋 翔太氏に授与された。

（6）2021年度応用地域学会論文賞（前掲）

2021年度応用地域学会論文賞は、山崎 福寿氏、瀬下 博之氏、定行 泰甫の論文、不動産仲介の兼任制度に関する理論的基礎について、応用地域学研究 第2019巻23号 pp. 24-44 に授与された。

（7）2022年度研究発表大会の開催について（前掲）

（8）アジア地域科学セミナーについて

①第11回セミナー報告

奥村誠会長より、第11回はChinese Regional Science Association-Taiwan (CRSA-T)の主催により、2021年10月8日（金）、Feng Chia University(逢甲大学)を幹事校としてオンラインで開催され、日本（ARSC）からは6本の論文が発表されたことが報告された。

②第12回セミナーについて

第12回セミナーは2022年韓国にて開催予定であることが報告された。

（9）その他

高橋孝明副会長より、2022年2月～3月にARSC会則第8条および選挙内規にしたがって、2022年4月1

日から 2024 年 3 月 31 日までの運営委員選挙を実施することが周知された。また、総会参加会員より女性研究者が少ないことが気になるという指摘がなされ、具体的なアイデアが欲しいとの呼びかけがなされた。

13. 2022 年度第 1 回運営委員会報告（概要）

ARSC 事務局

2022 年度第 1 回運営委員会が 7 月 23 日(土)に行われました。議事録等の詳細が必要な方は事務局までお知らせ下さい。以下に、議事の要点をご紹介します。

議事要旨

1. 運営委員選挙結果報告（前掲）
2. 運営幹事等役員の選任(2022 年度選任)
 - * 運営幹事（渉外），坂下賞選考委員会（委員長・委員），応用地域学会論文賞選考委員会（委員長・委員）の各委員長・委員を選出した。
 - *（2022 年度役員一覧は前掲）
3. 2021 年度決算と課題
 - * 2021 年度決算概要について報告された。（前掲）
4. 2022 年度坂下賞の選考（前掲）
 - * 例年どおりに、受賞候補者の自薦他薦を含めた推薦を公募する（ニュースレターとホームページで公募を開始）ことが確認された。
5. 2022 年度応用地域学会論文賞の選考について
 - * 例年どおりに選考委員会で受賞論文を選考する。
6. 2022 年度研究発表大会（山梨大学）の開催（前掲）
 - * 大会実行委員長の武藤慎一先生（山梨大学）より、大会準備状況が報告された。
 - * 大会開催日程は 2022 年 12 月 17 日（土）、18 日（日）とすることで決定した。
7. 2022 年度 第 12 回アジア地域科学セミナーについて
 - * 奥村会長より、日程、場所、現在の日本からの申し込み状況などが報告された。
8. ジャーナルの編集状況及び今後の方針
 - * 編集委員長 堤盛人先生より、2021 巻 25 号の発行が報告された。（令和 4 年 3 月 3 日 J-Stage 公開）
 - * 編集委員の交代について報告がなされた。
9. その他
 - * 事務局より、オンライン選挙用に新たに clerk@arsc.one というアドレスを作成したことが報告された。



ARSC 会員現勢

2022年8月31日現在の会員数(昨年度総会以降の入退会者を含む)は以下の通りです。

個人会員 470名(内、一般会員 403名, 学生会員 62名, 海外会員 5名)

賛助会員 5団体(総口数7口)。

事務局からのお願い

- ◆ 会員の皆様の登録情報は、メール連絡や請求書・領収書等の送付に重要な情報となっています。変更があった場合は、会員ページ (<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/arsc>) にログインし、速やかに登録情報の変更をお願いいたします。
- ◆ 地域科学関連分野の研究に興味を持たれている個人または団体が周囲におられましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。新規会員の入会申込はARSCのホームページ(<http://www.arsc.org/>)の「入会手続き」より行えます。入会に関するお問い合わせは、ARSC事務局でメール (clerk@arsc.org / clerk@arsc.one) 対応いたします。
- ◆ 従来の事務局アドレス clerk@arsc.org が不調です。エラーが出る場合などは clerk@arsc.one にご連絡ください。また、clerk@arsc.one からご連絡をお送りすることがございますのでご了承ください。
- ◆ 事務局やニュースレター等に対しまして、ご意見や新しい企画等ございましたら、是非、お知らせください。

編集 後記

最近、とある本で紹介されていた真鍋博氏のイラスト集を購入しました。「20年後の日本」として1970年代後半に描かれた未来都市の姿は、まるで現在の東京そのものに見えます。違いは、真鍋氏のイラストがとにかくカラフルであることくらいでしょうか。それからおよそ半世紀が経過した現在でも、スマートシティやスーパーシティといった次なる都市の将来像が描かれています。AIやIoTなどのデジタル技術の活用によって、単に利便性を追求するのではなく、心豊かで希望に溢れる社会を創造していくことが大切だと感じました。(TO)

ARSC NEWS No.108, 109 合併号 (2022年8月発行)

発行元 応用地域学会事務局 (文部科学省学会コード=10023)

会長: 奥村 誠

ARSC NEWS 担当: 高橋 孝明 (副会長) / 織田澤 利守 (渉外担当幹事) / 光井 明日香 (事務局)

〒162-0805 東京都新宿区矢来町126 NITTOビル (株)メッツ研究所内

TEL: 03 (5227) 7804 / FAX: 03 (5227) 7807

Email: clerk@arsc.org / clerk@arsc.one / 学会 HP: <http://www.arsc.org/jp/>

2020 年度決算と 2022 年度予算

2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)決算

収入の部	2019決算		2020予算		2020決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.繰越金	2,752,178		2,622,183		2,622,183	
2.個人会費収入	4,047,300		4,607,740		4,033,200	
3.RSAI会費	181,600		208,000		186,500	
4.賛助会費収入	450,000		400,000		350,000	
5.補助金等	0		0		0	
6.礼子収入	14		0		7	
7.雑誌販売 (Back Number)	14,490		30,000		0	
8.その他	20,212		0		0	
収入合計	7,465,794	0	7,867,923	0	7,191,890	
(繰越金を除く収入合計)	4,713,616	0	5,245,740	0	4,569,707	

支出の部	2019決算		2020予算		2020決算	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1.RURDS-行・購読費	2,475,693		0		0	
(購読費)	2,460,482		0		0	
(購集経費等)	15,211		0		0	
2.年報刊行費	573,593		850,000		214,060	
3.大会開催補助	273,718		920,000		116,781	
(年次大会)	-26,282		200,000		193,739	
(アジア地域科学セミナー)	300,000		720,000		-76,958	
4.RSAIへの送金	190,233		208,000		217,411	
5.坂下賞	122,550		122,000		123,100	
6.論文賞	20,680		21,000		33,660	
7.ニュースレター等印刷費	0		5,000		0	
8.一般事務費	302,926		330,000		168,011	
(郵送費)	100,207		120,000		68,902	
(消耗品等)	10,822		20,000		93,859	
(会議費・交通費等)	187,289		175,000		0	
(銀行手数料)	4,808		15,000		5,250	
9.事務高費	884,218		835,000		785,993	
(事務管理・事務員費)	600,000		600,000		600,000	
(会員管理システム費)	184,218		185,000		185,993	
(アルバイト費)	0		50,000		0	
10.予備費	0		1,954,740		0	
支出合計	4,843,611	0	5,245,740	0	1,659,016	
繰越金	2,622,183	0	2,622,183	0	5,532,874	
ドル貨円換算(手数料を除く)			0			
繰越金合計	2,622,183	0	2,622,183	0	5,532,874	
	-129,895				2,910,891	

注1: 2001年度よりドル口座を廃止。海外会員の会費は、円に換金して円口座に入金。

注2: 2016年度決算より、海外会員ドル貨会費は、円貨に換算(換金手数料差引)し、個人会費に含める。

監査の結果、決算は適正になされていることを認めます。

2021年11月8日

監査委員

近藤 恵介



2021年11月15日

監査委員

松浦 寿幸



応用地域学会2022年度予算書

収入の部	2020FY決算	2021FY予算	2022FY度予算
1.繰越金	2,622,183	5,532,874	5,532,874
2.個人会費収入	4,033,200	4,609,000	4,262,000
3.RSAI会費	186,500	208,000	208,000
4.賛助会費収入	350,000	400,000	400,000
5.補助金など	0	0	0
6.利子収入	7	0	0
7.雑誌販売(Back Number)	0	30,000	30,000
8.その他	0	0	0
収入合計	7,191,890	10,779,874	10,432,874
(繰越金を除く収入合計)	4,569,707	5,247,000	4,900,000

支出の部*	2020FY決算	2021FY予算	2022FY度予算
1.年報刊行費	214,060	172,000	172,000
2.大会開催補助	116,781	200,000	200,000
(年次大会)	193,739	200,000	200,000
(地域科学セミナー)	-76,958	0	0
3.RSAIへの送金	217,411	208,000	208,000
4.坂下賞	123,100	122,000	122,000
5.論文賞	33,660	21,000	30,000
6.ニュースレター等印刷費	0	5,000	5,000
7.一般事務費	168,011	330,000	330,000
(郵送費)	68,902	120,000	120,000
(消耗品等)	93,859	20,000	20,000
(会議費・交通費等)	0	175,000	175,000
(銀行手数料)	5,250	15,000	15,000
8.事務局費	785,993	835,000	835,000
(事務管理費)	600,000	600,000	600,000
(会員管理システム費)	185,993	185,000	185,000
(アルバイト費)	0	50,000	50,000
9.予備費		3,354,000	2,998,000
支出合計	1,659,016	5,247,000	4,900,000
繰越金	5,532,874	5,532,874	5,532,874
収支差	2,910,691	0	0

*決算書では2019年度決算に合わせてRURDS欄を入れたが、予算書では今回よりRURDS欄を削除した。

